

甲賀市青少年活動セミナー 2022 概要報告

目 的	青少年の活動を実施するにあたり、初めて参加する一般の青少年でもこのセミナーを通じて指導できる青年リーダーへと育てるとともに、青少年活動の意義や企画・実施における安全対策の重要性を学び、安全かつ効果的に事業が実施できるよう、意識と能力を高める機会として開催する。 今回は、青年リーダーから昨年度事業の報告と今後の活動について説明を行う。 また、本年は水難事故発生から15年目を数える歳であることから、今一度「水辺の安全を守る」学習を取り入れ、事故の未然防止等を学ぶ機会とする。
対 象 者	・ 青少年活動団体（青少年育成市民会議、かふか21子ども未来会議実行委員会） ・ 青年リーダー、アドバイザー
開催日時	令和4年7月31日（日）10：00～12：45
開催場所	甲賀市役所 3階 301会議室（甲賀市水口町水口6053番地）
内 容	10：00 開 会 ・ 黙 祷 ・ 市民憲章唱和 ・ 西村教育長あいさつ ・ 今井正裕氏の紹介（全体コーディネーター） （一般財団法人大阪府青少年活動財団 理事 兼 吉野宮滝野外学校部長） 10：05～10：30 ・ 昨年度の事業報告および今後の活動について（青年リーダー報告） 10：30～10：35 ・ 今井コーディネーターから講評 10：40～11：40 ・ 森重裕二氏 基調講演を視聴（7/23開催分） 題 名：思いはただ1つ・・・子どもたちの命を守ること。 11：45～12：40 ・ グループディスカッション（5班編成） テーマ【子どもたちの命を守るために『私』（私たち）ができることは・・・です】 ・ 自己紹介 ・ 個人ワーク ・ 個人発表 ・ 意見交換・発表まとめ ・ 各グループ発表 12：40～12：45 ・ 今井コーディネーターから全体まとめ 12：45 閉 会
実施結果	参加者：35名

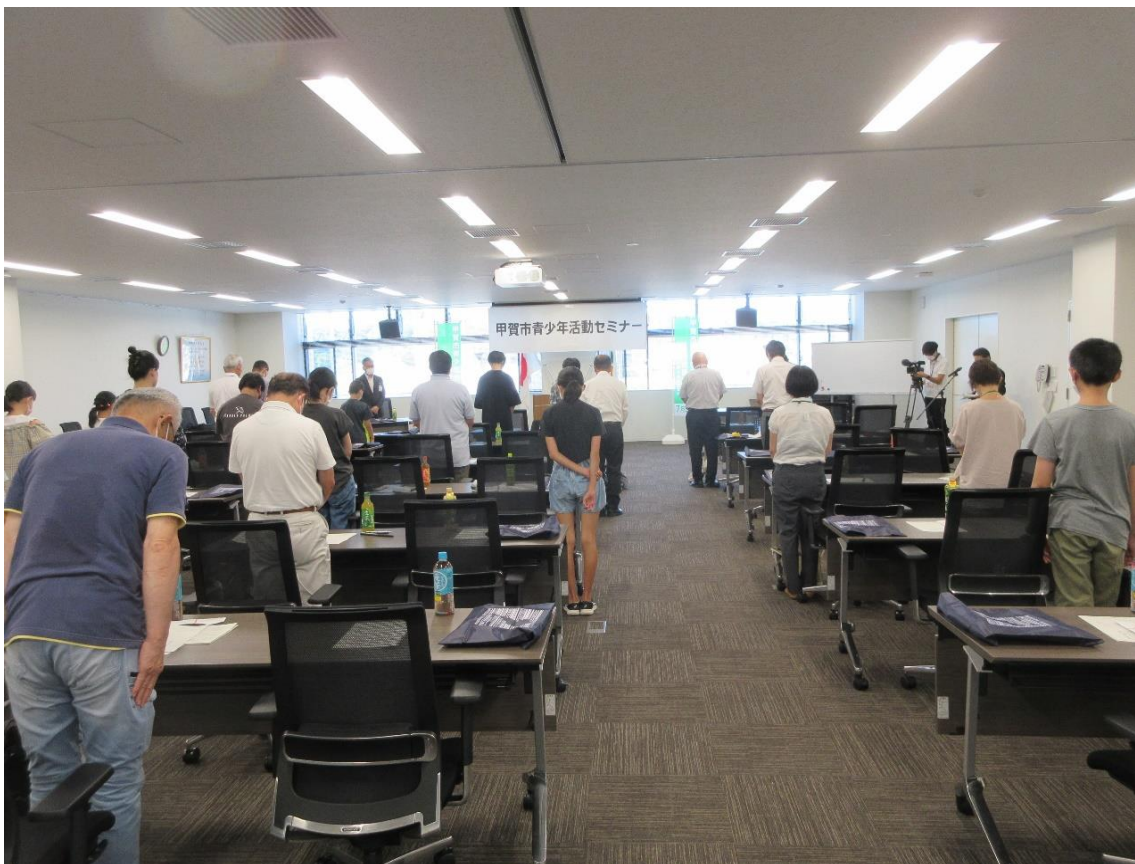
1

開 会



2

黙とう



3

市民憲章唱和



4

教育長あいさつ







今井コーディネーター講評内容

- ・相手がどのように感じているかという感じる力が必要である。
- ・原稿だけを見て説明するのではなく、周りの聞いている人の様子を伺いながら説明する。
- ・キャンプ事業では、実際に説明する際は相手が理解しているかを確認しながら説明しなければならない。
- ・このような機会で場数を重ねることが大切である。
- ・リーダーシップとコミュニケーションを図るような研修を受けることも大切である。
- ・コロナの影響でいろいろな事が疎外されている。これからは、リアルとバーチャルの融合が増えていくのでうまく活用すると良い。
- ・青年リーダーには今後の活躍を期待したい。



テーマ【子どもたちの命を守るために『私』（私たち）ができることは・・・です】





(A-1) グループ発表内容

【7項目に整理】

- ①約束
 - ・できるだけ大人が近くにいる。
 - ・1人で出歩かない。
 - ・危険な場所には行かない。
 - ・5時30分までには家に帰る。
- ②知識
 - ・危険な場所を広める。
 - ・水関係の行事に参加する。
- ③ふざけない
 - ・水の中でイタズラしている人がいたら注意する。
- ④はき物
 - ・水辺でスリッパ等ははかない。(脱ぎにくい靴をはく)
 - ・サンダル等川に流されても追いかけない。
- ⑤水辺の約束
 - ・流れのひどい時は奥へは行かない。(深い所へは行かない)
 - ・大人についてきてもらう。
- ⑥救助
 - ・友達が溺れていても飛び込まない。(大人を呼ぶ)
 - ・浮くものを投げる。
- ⑦ライフジャケット
 - ・ライフジャケットの大切さを教える。
 - ・川に行くときはライフジャケットを着る。



(A-2) グループ発表内容

【3項目に整理】

- ①発信系・・・ライフジャケットの大切さを広める。
 - ・子ども議員として提言する。
 - ・学校の図書室へ防災関係の本を入れ紹介する。
 - ・保健だよりのにのせる。
- ◎発信し皆に伝えることで、事故の危険性や事故を未然に防ぐことの大切さを共有することができる。
- ②意識系・・・事故を意識する。意識づけをする。
 - ・水関係の行事に参加する。
- ◎意識することで、一人ひとりの気持ちが変わってくる。
- ③行動系・・・事前に情報を仕入れる。
 - ・大人と一緒にいく。
 - ・過去の事故を学ぶ。(対処法を考える)
- ◎自分にできることをする。自分の命は自分で守る。

『上記の項目を守れば、事故は未然に防げる』



(B) グループ発表内容

【3項目に整理】

①動いてできること

- ・ライフジャケットの必要性について伝えていくこと。

②伝えてできること

- ・親の立場として子どもに危険な体験をしてほしくない。
- ・親として悲しい思いはしたくない。

③危ない体験をさせたくない ⇔ 危険なことを正しく教えたい
(安全な環境が確保できるなら)

- ・確実に安全な環境をつくる。
- ・子どもが遊ぶ際に目を離さない。近くで見守る。



(C) グループ発表内容

【6項目に整理】

- ①企業、行政・・・各種団体で共通した取組み、連携が必要（情報の共有）
- ②安全（事前対策）・・・危険な事が発生した時に直ぐに動けるよう対策マニュアルを整備しておく。
- ③しっかり注意・・・危険行為への注意。啓発看板の設置。
- ④地域・・・子どもが遊ぶ場所の点検を行う。
・・・危険な場所の対策と周知をする。
- ⑤教育（スタッフ、指導者）
・・・きちんとした対策を行う。しっかり理解しておく。
- ⑥教育（子ども）
・・・『大人が変われば子どもも変わる』
・・・子どもたちの危険な事に対して知っておく。



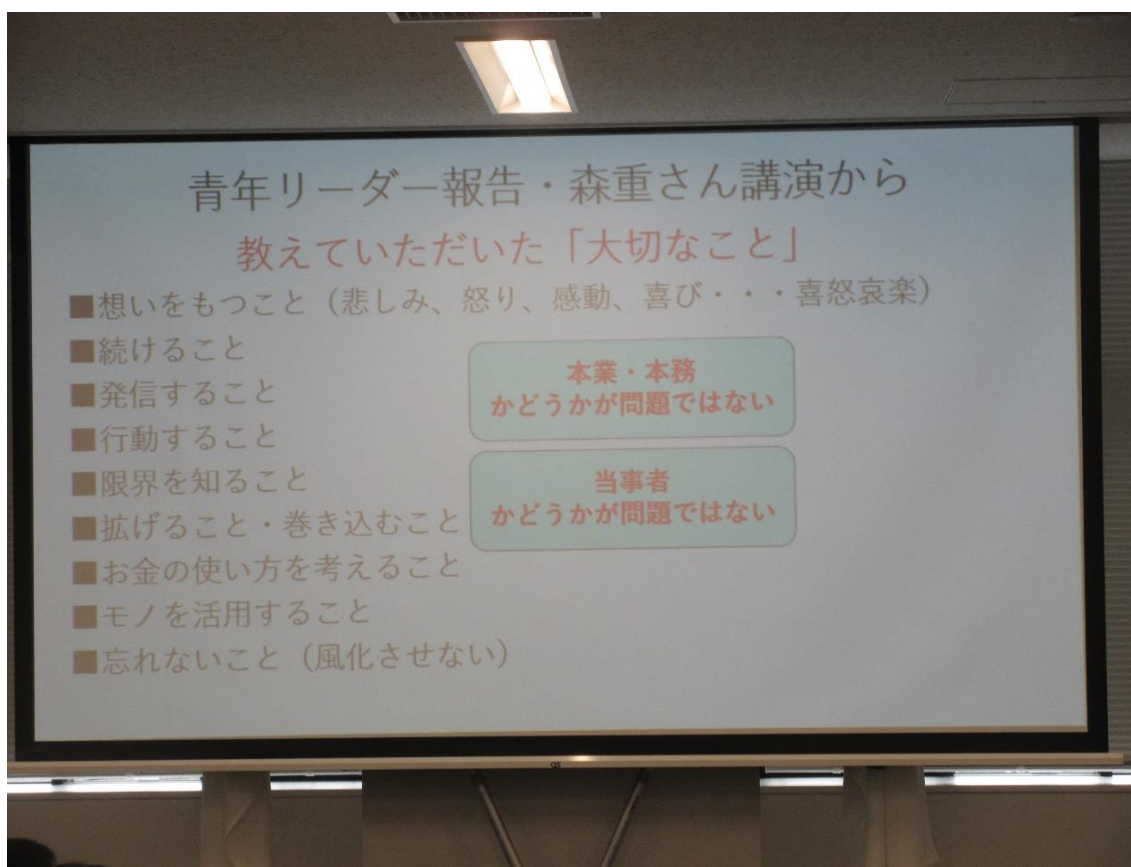
(D) グループ発表内容

【4項目に整理】

- ①ソフト面・安全に対しての啓発等をしっかり行う。
・安全対策マニュアルの徹底。
- ②ハード面・安全対策に関して必要物の整備（ライフジャケット等）
- ③人・指導者、青年リーダーの育成を行う。
- ④環境・各学校や団体への広報、周知を行う。



今井コーディネーターまとめ



【日本キャンプ協会の資料説明】

- ・キャンプ安全の日（7～8月の2ヶ月間）夏休み入る前に実施
- ・甲賀市水難事故や和歌山カレー事件（薬品混入事件）など紹介している。
- ・7～8月子どもたちが野外活動を楽しむ時期に行っている。

資料1・・・水難事故に気をつけよう

資料2・・・キャンプでの事故（テント内での一酸化炭素中毒）家族で気をつけよう

資料3・・・コロナ対策（チェックリスト）活用を

【森重氏の講演から教えてもらった『大切なこと』】

■想いをもつこと（悲しみ、怒り、感動、喜び・・・喜怒哀楽）

喜怒哀楽を出して話されている。いろんなものの原点は、自分が悲しんだり、怒ったり、感動したり、喜んだり、それがとても大切なこと。

■続けること

続けることが大事。途中で内容を変更しても続けることが大切。甲賀市であれば、水難事故から今年で15年であり今後も続けて行くことが大事である。

■発信すること

声に出して言う、SNSで発信する、いろんな方法はある。森重さんで言えば、絵本にしたり、メーカーに掛け合ったり、様々な事をされている。思うことは誰にでもできるが、行動にすることが大切で森重さんはとても参考になった。

■限界を知ること

森重さんが言っておられたことで、ライフジャケットを100着配っても1,000着配っても現状はあまり変わらなかったことがとても印象的であった。

■広げること・巻き込むこと

限界を知って、いろんな人と組んでやることが大切である。

■お金の使い方を考えること

お金を何に変えるか。森重さんは物に変えて行かれた。意識することが大事で意識があると無いとは全然違う。

■モノを活用すること

モノにしておくといけないということ。紙媒体や、ライフジャケット、絵本、拠点施設をつくるなどそういう事についてお金を上手に使うことも大切である。

■忘れないこと（風化させない）

思いからスタートすることが大切である。

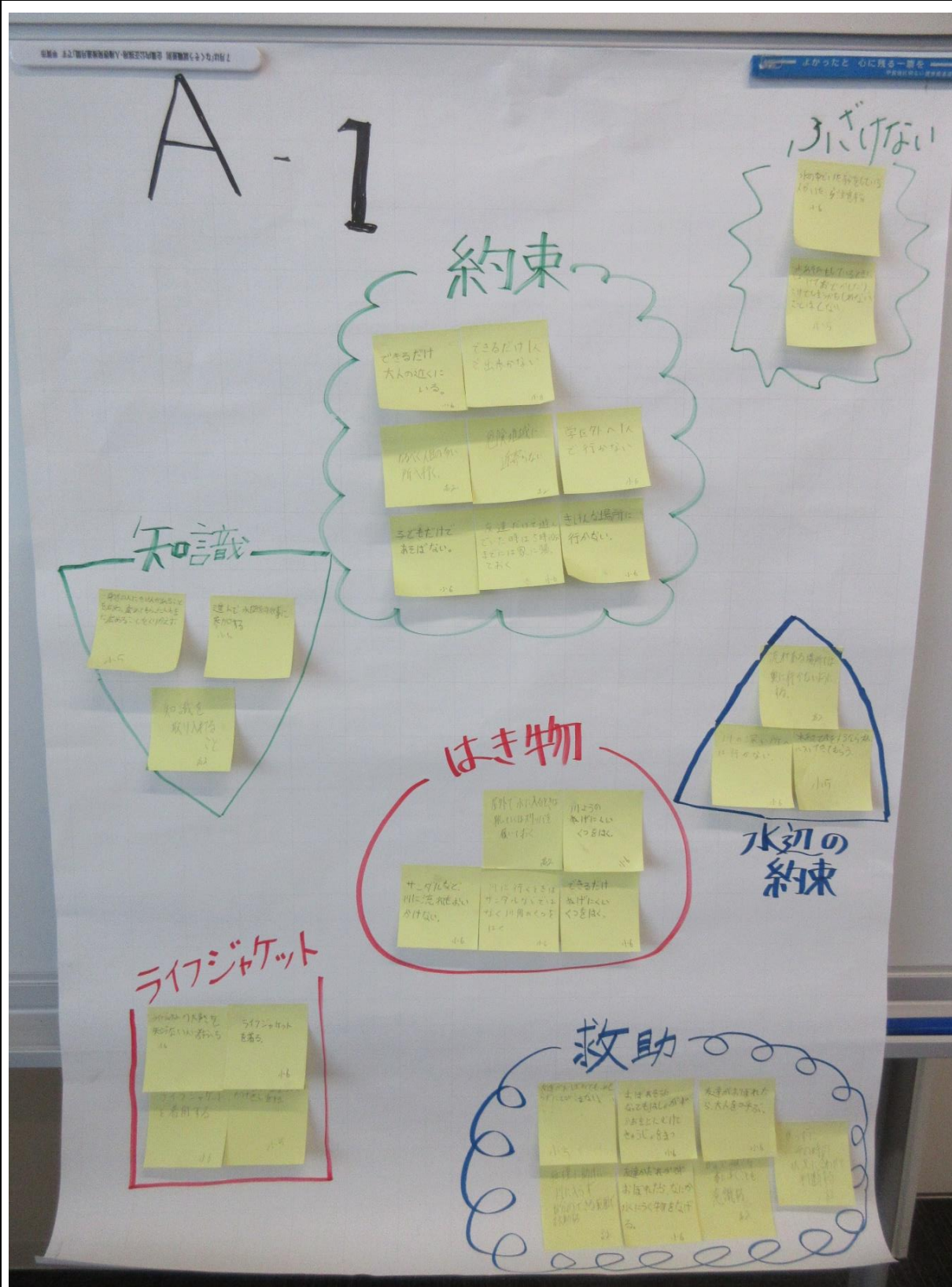
忘れない、風化させないためには、頭をつかう。知恵をつかう。

（まとめ）

- ・このような行動は、本業が何で本務がどうかということは問題ではない。
- ・当事者かどうかは問題ではない。遺族でない人でも熱い想いで行動すれば何かすることができる。できるかできないかではなく、やるかどうかである。アクションを起こすことが大事である。
- ・起こったこと、聞いたことを自分の事だと思ったり、身近なこととを感じる事が大切である。
- ・皆さんであれば、そのことが「甲賀市」であり、15年目に立った所にいる。本日の安全誓いの日にセミナーを開催した1日には、リアリティがあり、忘れてはいけない1日である。今後もいろいろとアクションを起こすことが大事で16年目、17年目と続けて行きながら、私も皆さんと一緒に甲賀市の野外体験活動を盛りあげていきたい。

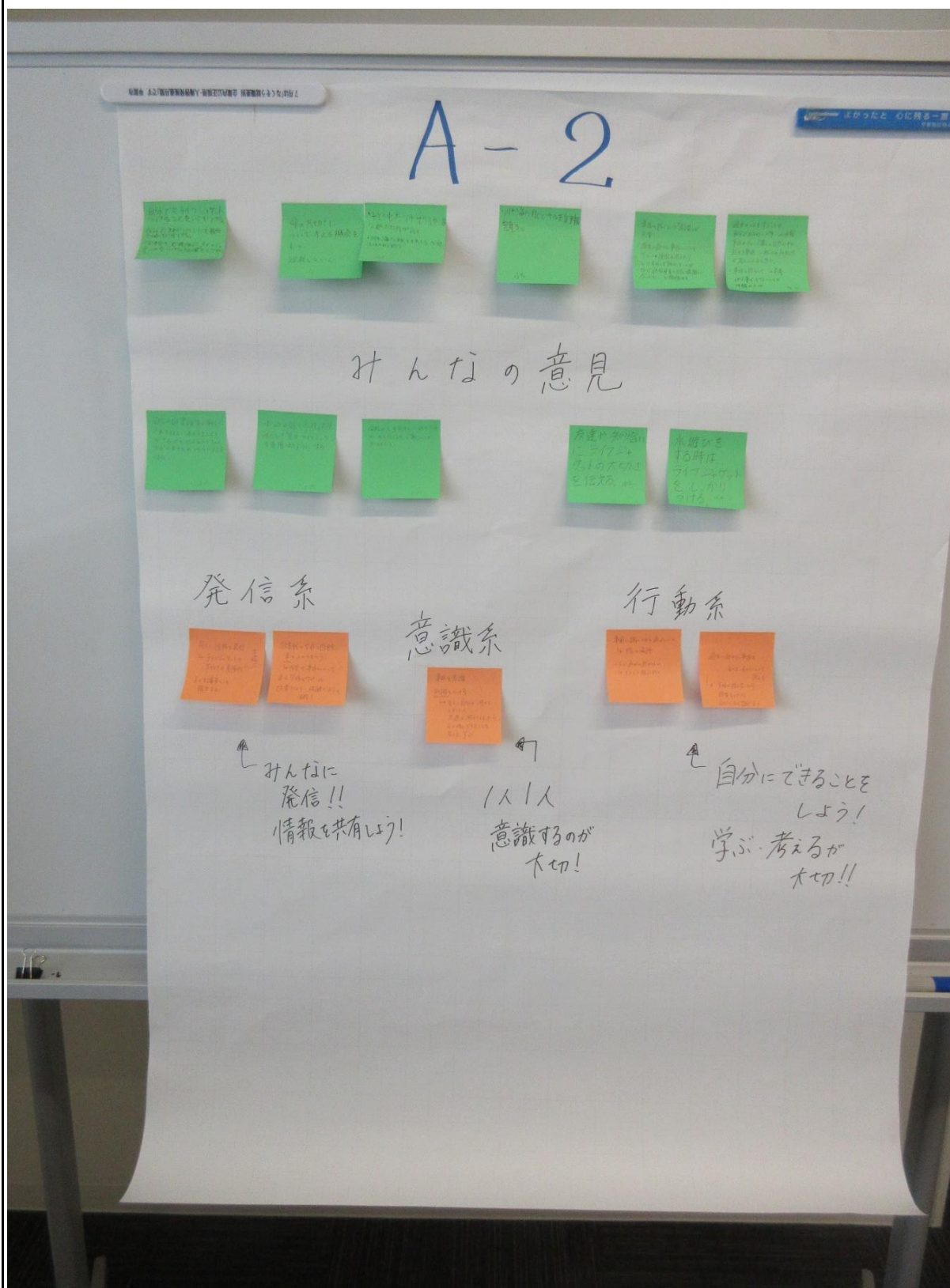
【A-1】グループの発表用紙

16 かふか2 1 子ども未来会議実行委員会 子ども議員+アドバイザー 6人



【A-2】グループの発表内容

17 かふか2 1 子ども未来会議実行委員会 子ども議員+アドバイザー 6人



【B】グループの発表内容

18 かふか2 1 子ども未来会議実行委員会 保護者+アドバイザー 7人

B グループ

動いて
できること

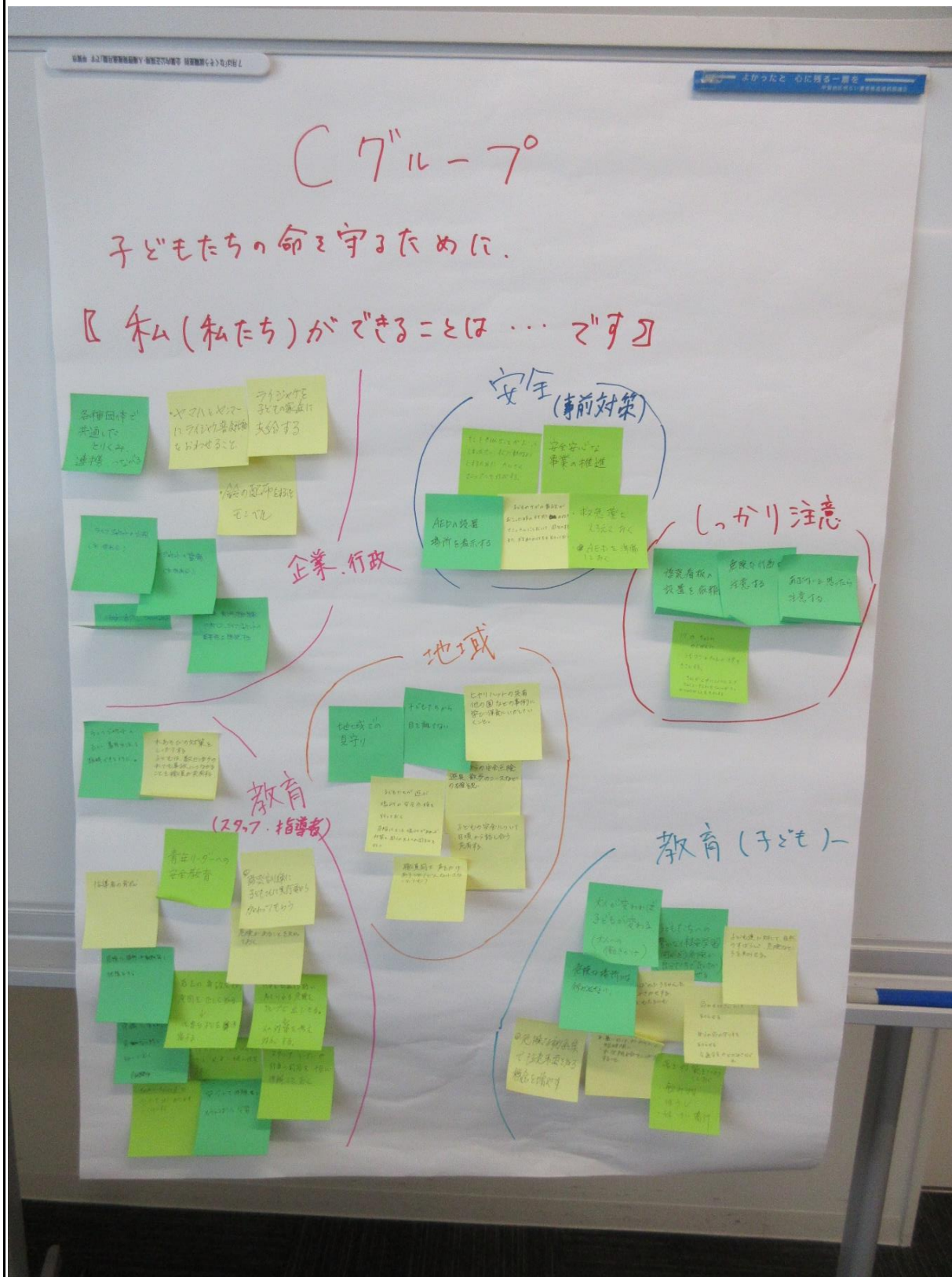
伝えて
できること

危険な体験を
させたくない

危険なことを
正しく教えない
(安全な環境が
確保できるなら!)

【C】グループの発表内容

19 甲賀市青少年育成市民会議＋青年リーダー＋アドバイザー＋市職員 9人



【D】グループの発表内容

20 市職員＋アドバイザー 5人



令和4年度 ニンニン忍者親子デイキャンプ事業の様子（7/16、7/17）

① レクリエーション



④ かぐによるナタの使い方・薪割り方・木の選び方



⑦ 地産地消カレーの材料下ごしらえ中



② さとちゃんの絵本読み聞かせ



⑤ 親子で初めての薪割り体験



⑧ おいしくできたよ いただきます！



③ 危険動植物の説明



⑥ 飯ごうで米とき



⑨ あ！雨がふってきた 記念撮影



⑩ たき火台を使って飯ごう体験



⑬ 木っ端でクラフト体験



⑯ ライフジャケットを着てみよう！



⑪ 5,4,3,2, いただきます！



⑭ 絵本読み聞かせ（かっぱのふうちゃん）



⑰ 夏といえば かき氷



⑫ びっくり！！フルーツポンチ



⑮ 絵本読み聞かせ（家族でかっぱのふうちゃん）



⑱ みんなで記念撮影



思いはただ1つ・・・

子どもたちの **命を守る** こと。

青少年の健全育成と青少年をめぐる社会環境について理解と認識を深め、青少年育成活動のより一層の推進を図るための研修会です。

今回は、子どもたちを水難事故から守るため「子どもたちにライジャケを！」という活動を続けられている森重裕二氏を講師に迎え、子どもの安全に関する知識と、事故未然防止策などについてお話いただきます。

皆さんのご参加をお待ちしています。

参加者
募集
定員180名

日時 令和4年 **7月23日**(土) 10:00～11:30
(開場9:30)

場所 忍の里プララ（甲南情報交流センター） 甲賀市甲南町竜法師600

◆基調講演

「思いはただ1つ・・・子どもたちの命を守ること。」



=講師=

子どもたちにライジャケを！代表

庵治石細目・松原等石材店 3代目

もりしげ ゆうじ
森重 裕二 氏

【プロフィール】

学生時代に、野外教育、環境教育を学ぶ。卒業後は、ヒッチハイカー、フリースタイルカヤッカーを経て小学校教諭に。2007年より「子どもたちにライジャケを！」の活動をスタート。"ライジャケサンタ"として、日々「ライフジャケット」についてSNS等で発信を続けている。2019年春に約20年続けた小学校教諭を退職し、現在は「庵治石細目・松原等石材店」3代目として修業中。

◆新型コロナウイルス感染症への予防等対策・ご協力のおねがい

主催者にてスタッフの体調管理および物品の準備管理など、細心の注意で取り組みますが、ソーシャルディスタンスの確保や手洗い・うがい・消毒等の対応など、参加者の皆さんの日常の取り組みで成り立つ予防、対策も欠かせません。参加者同士での予防に関したご配慮をお願いいたします。

【申込期限】7/15(金)

【申込方法】別添「参加報告書」をご提出ください

●問合せ先● 甲賀市青少年育成市民会議事務局

(甲賀市甲南青少年研修センター内)

【主催】甲賀市青少年育成市民会議

【後援】甲賀市、甲賀市教育委員会

TEL 0748-86-8151 FAX 0748-70-3366



水辺の安全と子どもたちの命を守る絵本

かっぱのふうちゃん ライフジャケットでスイスイ

安全教育
に役立つ
絵本!

●あらすじ

夏になるとみんな楽しそうに泳いでいるのに、かっぱのふうちゃんは、「まだうまく泳げないからだめだよ」とお父さんに言われてがっかり。「おいらも泳ぎたいなあ」と大きなため息をついたら、「そのねがい、かなえてあげよう!」と窓からサンタのようなおじさんが飛びこんできて、袋からとりだしたのはライフジャケット!



★「子どもたちの命を守るために!」と、水辺の安全に関わるたくさんの人たちの思いを集めてつくった絵本。

★ライフジャケットの必要性・使い方が子どもたちによくわかる。

★大事なことがちゃんと伝わり、園や小学校・家庭での安全教育にぴったり!

★巻末にみんなで歌って踊れる「かっぱのふうちゃん」の歌を掲載。

これだよ!



文：森重裕二 絵：市居みか

定価：本体 1,300 円+税
ISBN978-4-86412-211-5
C8737 NDC376
B5 判上製 24 頁

ライフ
ジャケットの
つけ方



こんなところがあぶない



●森重裕二（もりしげゆうじ）
元小学校教諭。子どもたちの命を守るために「ライフジャケット」を広める「ライフジャケットサンタ」を名乗る。活動はNHK「おはよう日本」、Yahoo ニュース、朝日新聞デジタル、FM 香川、FM COCOLO などに取り上げられる。「JOLA2022（ジャパンアウトドアリーダーズアワード）」優秀賞&特別賞を受賞!

●市居みか（いちいみか）
1968 年兵庫県生まれ。絵本に『ろうそくいっぱん』（小峰書店）、「ねこのピカリとまどのほし」（あかね書房）、「ぼくだってトカゲ」（文研出版）、「弾きがえる」（子どもの未来社）など多数。

ご注文はお近くの書店、ネット書店もしくは、FAX で右記弊社までお願いします。FAX：03 (3830) 0028

注文書	ご注文 冊数	書 名
書店番線印		かっぱのふうちゃん ライフジャケットでスイスイ 文／森重裕二 絵／市居みか 定価：本体 1,300 円+税 ISBN 978-4-86412-211-5 C8737 NDC376
お名前	冊	電話番号
ご住所 〒		

系会本「かっぱのふうちゃん」への思い

この度、「水辺の安全を楽しく学び命を守る系会本」をつくりました。「かっぱのふうちゃん ライフジャケットでスイスイ」というかわいい系会本です。系会を担当してくださったのは、甲賀市在住の系会本作家・市居みかさんです。入会した系会本になりました。

ボクはこれまで「子どもたちにライフジャケットを!!」という活動をひたすら系売けてきました。この夏で15年になります。キッカケは2007年7月31日に起こってしまった悲しい事故でした。報道で知って、その場で泣き崩れたことをよく覚えています。

これまでたくさんの方に活動を支えていただき、積み重ねてきたことが、たくさんの方の協力によって今のカタチになりました。みんなの思いが隅々まで詰まっています。

どうかこの系会本をキッカケに、今一度、水辺の安全のこと、そして15年前の事故のことに思いを寄せていただく時間をつくっていただければ...と思います。

そして、ぜひ子どもたちに読み聞かせていただいて、安全指導に役立てていただければ...と思います。

2022.5.2

思いはただ一つ...子どもたちの命を守ること。

子どもたちにライフジャケットを!!
ライフジャケット 森重 裕二 

(甲賀市内の保育園、幼稚園、小学校、支援センター、図書館への寄贈は、四万十川での事故のご遺族である藤田さん・葉馬さんのご寄付によって実現しました。)